

第103回 企業活性化研究分科会・議事録

<第百三回 2018年1月20日(土) 時間:13:30~17:00 於:専修大学(神田校舎)>

参加者:井端、木村、鈴木、高市、但野、夏目、古山、宮川、山本(真)、山本(洋)(10名)

1. テーマ:最近の粉飾事例の分析

・報告者:井端和男 ・配付資料:13枚

・報告内容の要旨

本報告は、売上高や売上債権などの分布を用いて、財務数値が正常かあるいは異常かを判別する方法を検討したものである。売上高と売上原価、売上高と売上債権などの交点をもとに回帰直線を求め、粉飾の予測が可能であると報告した。

上場企業6社を分析対象に、その対象ごとに分析期間をいくつかに分割して交点の違いを検証した。異常値があるときは、異常値を除いて回帰直線を引く必要があるとした。分析期間の分割について、分割期間の一貫性や比較可能性の観点から検証する必要があるとの指摘があった。

2. テーマ:非上場および中小企業の情報開示方法に関する研究・前編

・報告者:高市幸男 ・配付資料:18枚

・報告内容の要旨

本報告は、非上場あるいは中小企業を対象とした、企業情報の開示方法を提案したものである。現在、非上場企業や中小企業の情報開示に関する理論が整理されていないことを問題点としている。経済や企業の健全な発展のためには、非上場企業や中小企業に関する情報開示が必要であると報告した。

中小企業の大半が赤字のなかで、情報開示に前向きな企業は極めて少ないのではないかとの指摘があった。また、会社法では全ての株式会社を対象に、決算書の開示義務が定められているにもかかわらず、多くの中小企業が公告していない現状を指摘した。この点に関して、分科会会員の知見を深めるためにも、会社法の専門家を招き、その知見を学ぶ必要があることを確認した。

3. テーマ:ESG投資についての一考察・前編

・報告者:木村充宏 ・配付資料:9枚

・報告内容の要旨

本報告は、投資家の視点からESG投資について考察し、ESG銘柄と言われる企業の投資パフォーマンスと、ESG非採用企業のパフォーマンスを比較検証したものである。検証内容は日経平均株価とESG投資先である18社の株価を比較した分析を行い、ESG採用企業のパフォーマンスが日経平均株価と相対的に良好であることを示唆する結果が得られたと推察した。とくに2008年のリーマン・ショックを境に、SRIからESG投資への流れが加速していると指摘した。

4. 今後の予定について

・2018年3月10日(763教室)

中小企業のディスクロージャー理論・後編

—高市先生—

ESG投資についての一考察

—木村先生—

今後の分析対象について

—宮川先生—

(文責:山本真也)